

2024年11月10日

医療福祉ジャーナリズムの目的地

国際医療福祉大大学院医療福祉ジャーナリズム分野

染谷 一

JOURNALISM



JOURNAL + ISM

「JOURNAL」 = 日記、日誌、
雑誌など

「ISM」 = 主義や特性、学説、
理論、動作などを抽象名詞化





JOURNALISM

一般的な認識は、メディア（媒体＝入れ物）を利用して、ニュース、報道の形式で広く社会に物事を伝達すること

本当の役割は…

「その日」「そのとき」「その時代」を見て、聞いて、調べて、記録して、論評して、人に伝えること



医療・社会福祉はとても幅広い分野を含む

医療部、社会保障部、科学部、政治部、経済部、社会部、地方部（読売新聞の場合）

科学、化学、医療政策、福祉政策、医療経済、システム、事件・事故、都会と地方の格差、地方ごとの医療従事者偏在、医師ら医療従事者と患者の関係…

もっとも強く考え、伝えなければ

ならないことは……

ジャーナリズムに共通するテーマ

QOL (Quality of Life)



LIFE



LIFE



生活

命

人生

医療福祉ジャーナリズム

一人一人の人間が「現代社会で生きていくこと」が最大のテーマ

すべての人間にとって、生き方、考え方は違って当然でも

ライフデザインをするにあたって

「健やかさ」「快適さ」「尊厳」を追求することは共通

過去を知る

現在を感じる

未来を考える

→ それを伝えること

医療における臨床、研究だけに目配りする？
福祉における政策、制度だけを考え、論評する？

医療福祉ジャーナリズムは 「クロスオーバー・スタディー」

政治、経済、科学、社会学、心理学、組織論、都市論、文化人類学、
哲学、メディア論…

自分なりのテーマを決めて、多角的に調べ、考え、論述し、それを人に伝えていく

LIFEについて考えるとき

デジタル社会は諸刃の剣に

デジタルを「使う立場」ならいいが、

「使われる立場」になると

医療福祉ジャーナリズム本来の意味、意義、目的を見失う

エコーチェンバー

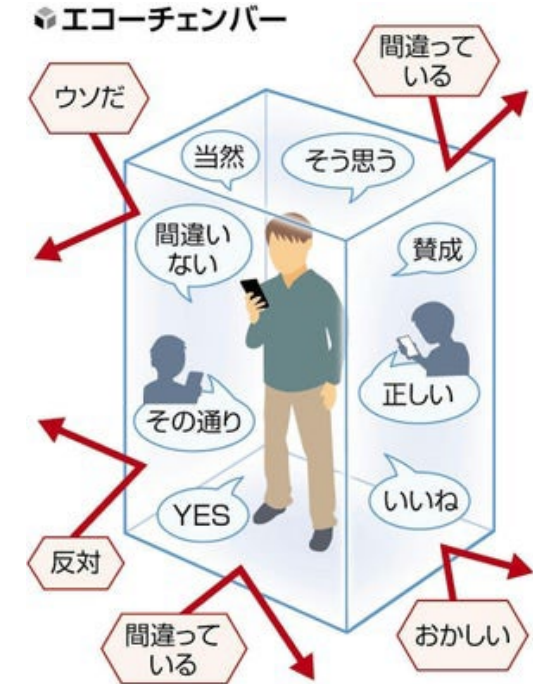
主にSNSなどで、自分と関心が近く、共鳴しやすい人と閉鎖的な環境が構築されること。考え方は一定方向に増幅・強化され、柔軟性が失われていく。

フィルターバブル

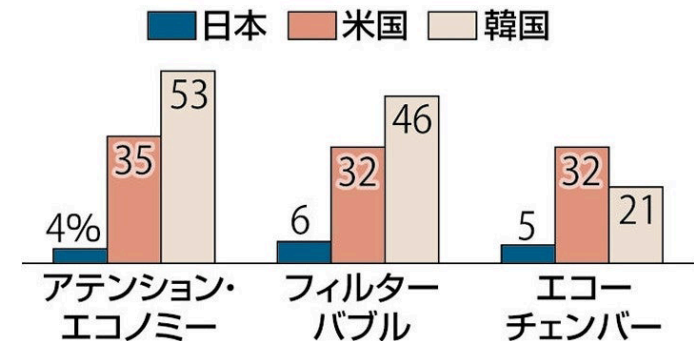
ネット上の履歴などをもとに、好みに合った情報が優先的に送られてくること。視野が狭くなり、多様性を受け入れにくくなる。

アテンションエコノミー

個人の関心に沿った情報のみにさらされ、それが営利活動に生かされること。情報の正しさ、価値よりも、他者の経済的な目的に沿って関心が操作される



◆デジタル空間を理解するための用語の認知率



AIが考えたものではなく、人間として行動を重視する

それを見て、聞いて、調べて、考えることが出発点

本当の意味で「LIFE」について研究する

医療福祉ジャーナリズム

一緒に話し、考えながら、さまざまなテーマについて幅広く、そして深く理解を深めていきたいと考えています。

ご清聴、ありがとうございました